蒲郡に産科医確保が実現

衆議院議員 今枝宗一郎氏 シリーズ 改革！対談 第２回

テーマ 産科医療

東三河に関連した政策課題について、衆議院議員、今枝宗一郎氏がその道の第一人者と対談するシリーズ「改革！対談」第2回のテーマは、安心して出産できる環境をつくるための産科医師確保についてです。

はじめに

医師である私が衆議院議員を志した原点は、医療崩壊の危機に瀕（ひん）する地域を守るために、これまでの医師数を抑制してきた政治を変えて、医師不足を解決することです。

2年前に衆議院議員に当選させていただいて、国全体としての制度改正と東三河の医師確保に邁（まい）進してきましたが、皆さんのおかげさまで、豊川・蒲郡・新城北設楽で、それぞれ、内科や外科、救急に関わる医師を確保することができました。

しかし、産科医については、地方部は全国どこも不足し、それどころか地域の中核となる病院からも医師の引き上げがさらに進んでいる状況です。そんな中で最も難しい産科医の確保がようやく実現できるようになってきました。

産科医不足

今枝　本日は、医療法人葵鐘会理事長の山下守先生と対談させていただきます。東海地方で12の産婦人科クリニック、100人以上の医師がいる医療グループを運営されています。山下先生と私とは、大学が同じで、私の産科医不足対策にも協力していただいております。それでは、よろしくお願いいたします。

現在、東三河の市町村は産科医不足に悩んでいます。新城北設では、そもそも産科医がおらず出産ができません。また、産科医不足で、蒲郡市では市民病院での出産の制限が行われています。人口18万人の東三河第二の市である豊川市ですら出産の制限は行われることがありました。

地元で子どもが産めず、里帰り出産もできないということは、人口減少という地方の一番大きな課題は解決できません。地元で安心して子どもを産み育てられる環境は子育て世代が、地元親元に戻ってくる、暮らす必要条件です。

しかし、現実は地方は日本全国どこも深刻な産科医不足で、大都市浜松の大病院でも産科医は減少しており、解決法も全く見えていないというのが現実です。

そもそも、なぜ産科医は、こんなに減少してしまったのでしょうか？

今枝宗一郎氏

厳しい勤務環境

大学医局からの派遣難しく

山下　いくつか理由がありますが、勤務環境の厳しさです。出産は時を選びません。妊婦が陣痛発来すれば、産科医は外出中でも真夜中でも対応しなければなりません。しかも、救急医療と違って、産科クリニックは1人で、病院でも1～2人しかいないこともあり、24時間365日病院にいなくてはならないということもあります。

それでも、日本の産婦人科医療は世界的にも質が高く、生まれて直後の赤ちゃんの死亡率は世界一低いのです。それでも、出産は危険なもので、何かあれば赤ちゃんのことですから、ご家族は必死です。訴訟のリスクは、他の診療科の数倍です。そのことも産科医減少の要因です。

山下守氏

今枝　その中でも地方の産科医不足は一層深刻です。なぜでしょうか？

山下　他の診療科でもそうですが、これまでは大学医局に医者がたくさんおり、そこから地方の病院などに派遣されて地方の医師数を保っていました。しかし、現在は、大学医局に医師が集まらず、医師を派遣できなくなっています。

医師のキャリアパスが多様化しています。しかし、地方に医師を派遣する機能は大学医局にしかありません。ですから、葵鐘会はその機能を持って、地方に医師がいて産科医療を守る新たなシステムをつくりたいのです。

今枝　具体的にどのように地方の産科医療を支えるのでしょう？

山下　産科医療には、クリニックでの一次医療、病院での二次医療、集中治療室を完備した大病院の総合周産期母子医療センターでの三次医療があります。

リスクの高い出産は、二次医療、さらに一部は三次医療が対応すべきですが、出産の多くが一次医療で対応できます。産科医不足地域では、まずは一次医療の充実をして、病院に全てのお産が集中するところを減らすことが一つの解決策です。

その際、大切なことは、複数の医師で助け合いながら産科医療を支える体制をつくるということです。一人の医師に全て任せてしまうと潰れてしまいます。私たち医療グループ全体として、複数の医師で産科クリニックを運営し、また当直や土日などは、さらに別の医師が支援に入る体制をつくっています。

自分の住む市町村で出産したいという当然の思いですし、お産は急にやってきますから近くで産めることは大きな安心です。

今枝　また、里帰り出産ができるようになれば、都会へ出ていった娘さんやお孫さんも里帰り時に地元の良さに気付き、戻ってくるかもしれません。現在、地方で最も深刻な人口減少問題への抜本対策の一つです。

一次医療を充実、集中回避

複数の医師で助け合いながら

今枝　ありがとうございます。しかも、柔軟に運用していただけるという事で、蒲郡市民病院でもっと多くのお産ができるようになれば、産科医数をコントロールして、市民病院で産んでもらえるようにもしていただけるのですよね？

山下　はい。蒲郡に産科医を何人か連れてきて、これまで先生一人で頑張られていた蒲郡市内の産科クリニックに当グループに加入していただき、3月1日よりオレンジベルクリニックとして医師を複数体制に強化します。24時間365日体制で、夜間当直も安心です。

市民病院と併せて、蒲郡の子どもは里帰り出産も含めて、全員蒲郡で産める体制をつくります。

今枝　私の妻の生まれ育った蒲郡市では、市民病院が産科医不足で、1カ月に出産できる数が20人と制限されています。市内にもう一つのクリニックがありますが、併せても蒲郡市内で産まれる子どもが月平均約50人、里帰り出産も含めれば月60人は出産できる体制が必要ですが、全く不足しています。

そのような中、私は蒲郡で安心して子どもを産み育てられる環境をつくりたいという決意で、ずっと以前から葵鐘会さんに、蒲郡に産科医を増やしてくれるようにお願いをしてまいりました。そして、今回、話をまとめていただいて、産科医療の充実をしていただけるのですよね？

山下　いえ、大学医局に派遣をお願いしても、医師の引き上げがさらに進んでいる状況です。そんな中で最も難しい産科医の確保がようやく実現できるようになってきました。

今枝　ありがとうございます。

山下　病院への医師派遣も積極的に行っていきたいと考えています。しかし、既存の病院への派遣にはいくつかの課題もあります。

例えば、今いる産科医は多くが大学医局から派遣されてきている場合が多いですから、異なる出身の医師が混在して連携がうまくいくかという課題。産科医は他科の医師と勤務体系が異なり、そうすると給料体系も異なる現実があります。市民病院などは市から財政支援を受けていますが、医療にはどうしてもコストがかかりますので、それを市民の皆さんにご理解いただく必要もあります。

しかし、こういった課題を乗り越えて実現していきたいと思います。

今枝　赤ちゃんやお母さんのためですから、ぜひ、大きな心で対応していただきたいですね。課題といえば、もう一つ大きなものがあります。現在では、へき地病院以外は、制度上、民間の医療法人からの医師派遣がそもそもできないのです。現在、私は制度改正に取り組んでいますが、地方の医師不足対策への大きな可能性として必ず成し遂げたいと思います。

山下　私は、愛知14区、東三河の皆さんは本当にお幸せだと感じています。医師で産科医療のことも良く理解して、国の制度のみならず、地域の医師確保にも奔走される国会議員の今枝さんがいるのですから。

産科医不足や産科医療の問題は、誰もが解決できないだろうと言われてきました。一度、産科医療の制限をしてしまうと、産科医が増えることはほとんどなく、増えてもせいぜい1人、それもまた減ってしまうということを繰り返す場合が多いのです。実際に、これまでの東三河の産科医療はそのような状態でした。

私たちも、今回の蒲郡のように医師を送るにしても、今枝さんがいてくれることで安心して支援することができます。これからもずっと頑張っていただかなくては私たちも困ってしまいます。

今枝　ありがとうございます。全ては、赤ちゃんやお母さんのため、それは皆さんの子どもさんやお孫さんかもしれません。ともに頑張りましょう！

産科医師確保について語り合う今枝氏㊧と山下氏

蒲郡の子どもは皆 地元で産める環境に

産科一次医療を複数医体制へ

産科医派遣

産科・婦人科・小児科

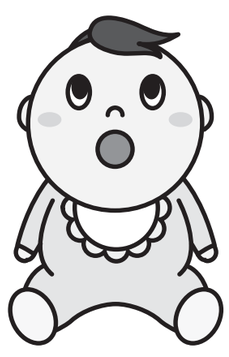
2015年3月1日 蒲郡市に誕生！

オレンジベルクリニック

（旧：杉浦レディスクリニック）

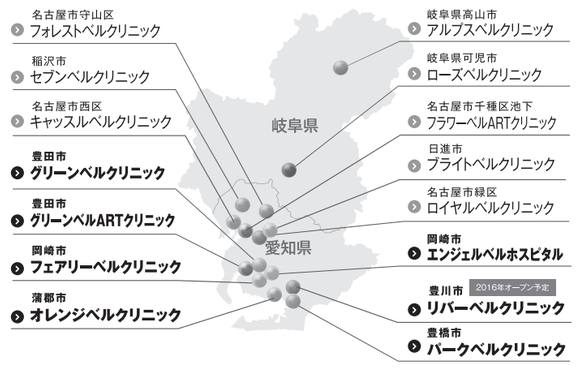
蒲郡地域への里帰り出産は、全面受け入れ可能です。

小児科診療も開始！



「マザーブック」
ご予約された妊婦さんへ
ママのお腹と一緒に育つ
妊娠記録本プレゼント！

常時、分娩予約受付中　詳しくはこちらから　TEL 0533-68-2311

蒲郡市神明町23-21　オレンジベルクリニック　検索

KISHOKAI Medical Corporation
Bell net
www.kishokai.or.jp
医療法人 葵鐘会